

20010

振動式末梢血管貫通用カテーテルシステムの使用経験

【はじめに】当院では 2014 年 4 月より下肢動脈における CTO 病変に対して、振動式末梢血管貫通用カテーテル(以下 Crosser)を用いた治療を行っている。Crosser は CTO のガイドワイヤー通過困難な場合に、ガイドワイヤーの通過を補助し、機械的振動により通過部を確保する事が目的である。**【目的】**Crosser の使用経験について報告する。**【対象及び方法】**2014. 4. 1～2014. 6. 30 に浅大腿動脈の CTO に対し、Crosser を用いた患者 14 名(男性 8 名、女性 6 名、平均年齢 73.3±10.4 歳)を対象とした。また、Crosser 通過の有無から TASCII 分類に分け比較した。**【結果】**通常のワイヤークロスが困難であった症例に対し Crosser を使用した結果、通過 9 名、不通過 5 名であった。TASCII 分類において通過は A 型 22.2%、B 型 11.1%、C 型 11.1%、D 型 55.6%に対し、不通過は D 型が 100%であった。不具合は 14 症例中 1 件でカテーテルの先端が伸びる事象が認められた。**【考察】**不通過は TASCII 分類 D 型が多い事から、病変長が長い事で通過が困難であったと思われる。また、ワイヤー先端が伸びる不具合が報告されているが、今回は早期に発見出来たことで、遺残することなく施行できた。そのため、ワイヤーの変化を見逃さない事は重要であると思われる。**【結語】**Crosser の有用性が示唆された。また、認可されたばかりの新たなデバイスであり、今後のデータの収集を行い、治療成績や効果を検証する必要性を感じた。